

星総合病院 開心術1000例記念パーティー開催

1990年に星総合病院心臓血管外科が創設され、同年5月に初めて開心術が施行されてから17年、平成19年9月に1000例を達成しました。10月24日、この1000例達成を記念したパーティーが郡山ビューホテルにて行われ、当法人職員および院外の医療機関の先生方など100名を超える参加がありました。

丸山幸夫総院長より、「1000例を一つの通過点としてさらに大きく発展していきたい」との挨拶があり、高橋昌一心臓血管外科部長が「星総合病院 開心術1000例のあゆみと現況」というテーマでの講演を行いました。



オリオン新聞を 発行しました

介護老人保健施設オリオンでは、季節ごとに様々なイベントを開催しております。そこで、ご家族の皆様および地域の皆様に、施設のタイムリーな話題を提供し、入所者や利用者の生き生きとした表情をお伝えしていくことを目指して「さわやか元気！オリオン新聞」を作成いたしました。年4回(春号・夏号・秋号・冬号)の発行となり、利用者家族や連携している介護施設および病院などに配布いたします。



「財団法人星総合病院 生活ガイドブック」を作成しました

当法人への実習生や新入職員、ポラリス保健看護学院の新入生など、新たに郡山を生活の場とする方々のために「財団法人星総合病院 生活ガイドブック」を作成しました。慣れない土地に早く馴染んでいただき、より快適に実習や業務に取り組んでいただけるよう、生活に役立つ情報を一冊にまとめたものです。対象者に配布し、是非役立てていただきたいと考えております。

【主な内容】

財団各施設紹介、郡山市の窓口(行政センター)、ゴミの収集・分別、郡山市の見どころ、県内観光地、職員優待店、職員およびポラリス保健看護学院の学生がおすすめするお店情報など



オリオン 絵手紙ボランティア

うつくしま絵手紙の会(会長:安達アツ子さん)より絵手紙をいただきました。季節の草花などが彩り豊かに描かれており大変温かみのある絵手紙です。定期的に新しい作品を施設内の掲示板に飾ってくださり、利用者の皆さんは楽しみにしています。

9月からは、入所者の誕生日に合わせて、入所者の名前を書き込んだ絵手紙を個人ごとに寄贈していただいております。



編集後記

明けましておめでとうございます。前回の懸虹を発行していただいた期間があいってしまったことをお詫び申し上げます。発行を心待ちにしていたら、いろいろと皆様、申し訳ありません。

早いもので、私が「広報」という仕事に携わって、まもなく1年が経過しようとしています。この仕事を通して、職員の方々とお話しする機会が増え、助言や励ましの言葉をかけていただくことも多く、人の温かさがうれしく感じる今日この頃です。

まだまだ未熟なところは多々ありますが、皆様にご指導いただきながら、今年も精進していきたいと考えております。本年もどうぞよろしくお祈り致します。

広報担当 菅野

ご意見をお聞かせ下さい。

ホームページアドレス
http://www.hoshipital.or.jp
発行/星総合病院
編集/「懸虹」編集委員会
発行日/平成20年1月10日
住所/〒963-8501
郡山市大町2丁目1-16



財団法人 星総合病院

懸虹

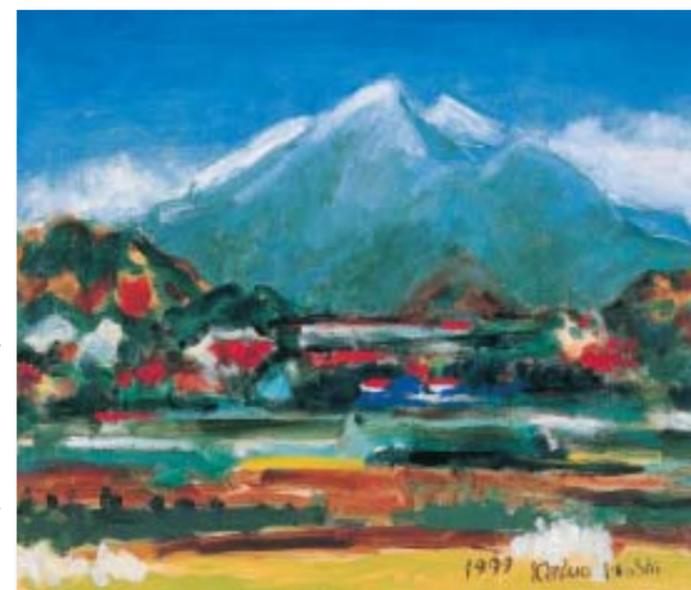
(題字は理事長直筆)



新年のご挨拶

安全で安心な医療の提供を目指して

- 第72回集談会
- 院内学会
- ミミツコクラブについて
- ポラリス保健看護学院「再就職をめざす看護職の再チャレンジ支援プログラム」研修
- 医学研究奨励助成制度
- 乳がん看護認定看護師誕生
- 心臓リハビリテーション指導士誕生
- 快適なMaternity health/lifeへのサポート施設ニュース
- トピックス



秋の安達太良 (F20, 1999)
理事長 星 一雄

醫 靈

病気は時代を映しているといわれています。栄養不足、不衛生などからの疾病に長い間人類は苦しめられてきました。しかし、時代が進歩した今、飽食や運動不足からくる肥満、そして併発する高血圧、高脂血症、糖尿病などを呈するメタボリックシンドローム(メタボ)が増加の一途をたどっており、大きな問題になっています。我が国のメタボ診断基準によれば2004年の患者数は約940万人、予備軍は約1020万人と報告されています。メタボ状態では動脈硬化が誘導されやすく臓器障害により日常生活に支障をきたし、重大です。医療経済的にも数倍の医療費増をもたらすことから、対応策を個人的にも国家的にも真剣に考えていく必要があります。まもなく保険加入者に対するウエストの測定などのメタボ基準の検証もなされようとしています。

喫煙はタバコを吸わない周囲の人にも影響を及ぼすことが知られて久しいですが、メタボも仲間メタボでない人がメタボになってしまう恐れがあることが指摘されています。

この現代病は、背景に外的要因としてのストレスや物が溢れている今の状況の中で節制した食生活をしなければならぬという難しさがあり、克服は容易ではありません。

我々医療人としては、更なる治療法の改善を目指すとともに、基本的なこととして体を動かすことや食生活のコントロールを心がけるよう指導し、メタボの予防、進行阻止に努めたいものです。

丸山 幸夫

<醫靈> 霊をも醫やしたい——という創始者の願いを医療従事者の医の心とすべく造られた本院の理念

安全で安心な医療の提供を目指して



年頭所感

財団法人星総合病院 理事長 星 一雄

新年あけましておめでとうございます。今年5月には、三春病院が完成し新病院での診療が始まります。当財団も一歩一歩足許を固めながら着実に成長をとげてまいりました。平成も今年で20年、年号としても成人を迎えるわけですが、わが病院も三春病院の新たなスタートを起爆剤として大きく飛躍する年になるでしょう。

医療を取り巻く環境は依然として厳しいものがあります。しかし、医療というものの本質を見極めて人の生命に真剣に向き合っていく限り、人が人のために尽くすという精神を失わない限り、人類の存在がある限り、医療は永遠だと信じます。

私たちの病院には「医霊」という理念があります。夢を失わず、毎日の仕事に真摯に向き合っていけば、必ず未来は開けるはず。今年も職員心をひとつにして、前向きに進んでいくことを願って新春のあいさつとします。

新年のごあいさつ

財団法人星総合病院 副理事長 星 二郎



明けましておめでとうございます。今年も宜しくお願い致します。昨年をイメージする漢字は「偽」でした。近年、医療分野では「医療不信」を耳にします。医療ミスや薬害などの問題が続いて医療現場への誤解とトラブルが増えて来たように思えます。我々ももっと患者さんとの信頼関係を図らなければなりません。

オービックの野田氏は、情報システムやサービスを売る仕事の基本はお客様がどんな問題を抱えているのかよく聞く事だと言います。

「医療不信を解く」ためには、さらに医療が抱えるリスクについての情報等も伝え、真剣に患者・家族と一緒に問題解決を考える事だと思います。また、医療人には、プロの集団としての自律を求められます。専門性の高さゆえに厳しい規律と倫理的規範を持ち、厳格な自浄作用を有する自律が必要です。

8年続いた医療費削減の中で生き残る為に、風通しの良い病院造りに、皆さんの真剣な取り組みとご協力を心から期待します。

2008年の年頭に思う

財団法人星総合病院 法人事業本部長 星 北斗



医療崩壊が叫ばれていますが、星総合病院では自らの役割を認識し、地域から求められる医療の提供に向けて着実に進んでいくことを目標にしてきましたが、これからもある意味で肅々と前進したいと考えます。

昨年4月には町立三春病院の指定管理者として業務を開始しましたが、医療機関の役割の一つでもある町づくり、人づくりの拠点として動き始めています。また、昨年中は市当局との協議をすすめながら、早期に駅東側の向河原地区への総合病院新築移転工事の準備を進めてきました。出来るだけ早い着工を目指したいと思います。

今年のテーマには、「新しい患者サービスの開発」を掲げたいと思います。これまで手の届かなかった患者さんのニーズに応えるため、提供側の理論ではなく受け手の視点で再構築したいと思っています。例えば、患者さんの理解と納得が得られる説明や支援の方策を考えていきます。

本年創立83周年を迎える当法人は、医療制度改革の荒波に揉まれながらも、地域に支えられてここまで来ることができました。今後とも地域の皆様のご協力をお願いします。

年頭にあって

財団法人星総合病院 総長院長 丸山 幸夫



新年おめでとうございます。皆様には大変素晴らしい新年をお迎えのことと存じます。私にとりましては当法人での最初の新年になりますが、職員の方々と接し、それぞれの立場で患者さんのことを気遣い仕事に打ち込んでいるのがひしひしと感じられ、いい病院だなあと実感しております。

最近の病院の歩みを見ていますと昨年は地域医療支援病院の指定、三春病院の運営参画など地域医療への貢献が着実に進み、効果を上げていますことは嬉しい限りです。地域の皆様からより一層信頼される病院となるためには、これまでに培ってきたものは大切にしながら当法人の医霊の理念、および私たちの誓いに示される目標に向かい日々努力すべきと考えます。ここで改めて患者さんへの思い遣りと診療面での創意工夫が、地道ですが、厳しい状況に置かれている病院の発展、生き残りに不可欠と肝に銘じるべきです。今年も安全で素晴らしい医療の構築に向け皆さんで互いに協力しながら頑張っていきたいと思います。

当法人の理念は、「医霊」である。これは辞書には載っていない。創始者星一郎が、私達も持てる力を最大限に発揮して、お救いなき人々を救済し、その霊をも癒（癒）した。それが医道（いどう）を歩む者が、生きたまま、その霊を歩む者が、め覚悟である。この信念が、医学の進歩を促す。この信念が、医学の進歩を促す。この信念が、医学の進歩を促す。



理念

新年のごあいさつ 星総合病院 病院長 池田 精宏



明けましておめでとうございます。皆様には健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。本年4月から「特定健康診査・特定保健指導」制度が施行されます。また、昨年に施行された改正医療法により、医療計画制度の下で、いわゆる4疾病5事業ごとの医療体制について新しい医療計画が作成されることとなります。

「特定健康診査・特定保健指導」は、「高齢者の医療の確保に関する法律」により、医療保険者は40歳から74歳の加入者（被保険者及び被扶養者）に対して義務付けられます。

特定保健指導は、特定健康診査の結果により、①情報提供レベル、②動機付け支援レベル、③積極的支援レベル、に分けられて行われることとなります。これまで低かった要医療者の精検受診率を改善し、より早期に診断・治療出来る方向に「特定健康診査・特定保健指導」が機能するように努力したいものです。

次に、いわゆる4疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病）5事業（救急医療、災害医療、へき地医療、小児医療、周産期医療）ごとの医療連携体制の構築について福島県としても策定作業が進められております。

この計画は、平成20年度を初年度として5か年計画で実施されることになっておりますが、当院としても各医療機能を担う医療機関として名称が記載されるように努める所存です。どうぞよろしくお願い致します。

よりよいサービスの提供を目指して

星ヶ丘病院 病院長 沼田 吉彦



あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いたします。昨年は、星二郎名誉院長より、病院長という重責の任務を引き継ぎ、舵取りをしてきた一年でした。

4月より町立三春病院の「心療内科」開設による診療圏拡大や県中医療圏内の救急診療受け入れ増加への対応を実施しました。また、外来機能は、予約制の導入やストレスケア等の専門外来の充実を図り、退院支援調整室と連携し、精神科救急治療病棟・社会復帰病棟等の病棟機能を進めました。

一方、医療の質の向上を目指し、全職員協力のもと日本医療機能評価機構の受審（現在、継続中）を進めてきました。

今年度は、更に「安全で安心な医療の提供を目指して」、良質で、決め細やかな医療を提供していきたいと思えます。それには、地域に密着し継続した診療を進めること、夜間帯を含めた精神科救急体制の充実を図ること、行政・福祉・教育と連携し、地域への医療保健福祉活動を図ることが必要であります。職員一丸となり、努力して参りたいと思えます。

今後とも皆様のご協力をお願いいたします。

新病院開院に向けて 三春町立三春病院 病院長 渡辺 直彦



新年あけましておめでとうございます。昨年4月から当法人が指定管理者としての町立三春病院がスタートしましたが、皆様のご支援により順調に運営がなされているところであります。さらに、今年5月には新病院へ移転しての新たな出発が始まります。新病院の外来は現在と同じ11診療科とし、健診の受け入れ体制を整備します。入院は病床数86床で新たな特徴として回復期リハビリ病床を整備していく予定です。

今、日本は前例のない高齢化社会に進んでいます。高齢に伴う医療費の伸びを抑えるために療養病床の削減や入院日数の短縮を図られるなど厳しい医療情勢の中で、三春病院としては地域医療連携の充実を中心に、この高齢者医療にしっかりと対応していきたいと考えております。そして、安全で安心な医療の提供を心がけ地域に信頼される病院を目指して、職員一同なお一層の努力をしていく所存であります。

皆様の引き続きのご支援をよろしくお願致します。

『日々新たなる発見』を目指して

介護老人保健施設オリオン 施設長 森 慶秋



明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願致します。旧冬11月、12月と風のない日に久しぶりに星ヶ丘の外回りを歩いてみました。運動のために少し歩こうと。20年前に移動してからずいぶん歩かなかったなとびっくりしました。南側の道路からは下の田んぼが広がって見えたのに草木が生い茂って背伸びしても見えません。グラウンドはちょうどリトルリーグの練習中でした。数は少なかったが元氣よく挨拶してくれました。バックネットには立派な風除けもできて見違えるようでした。ゲートボール場として作ったコートは使われず、東屋も柱が倒れ掛かっています。歩き回るとは草が深すぎます。こんどはトレッキングシューズでもっと歩く範囲を広げようと思えます。下の神社の縁で昼寝の人もいました。最初のころ作った散歩道はどうなったか、楽しみでもあります。「兵どもの夢の跡」のようでもあり、むかし、一緒に歩いた患者さんたちも思い出されました。

法人設立20周年を迎えて

社会福祉法人愛星福祉会 理事長 星光 一郎



新年、明けましておめでとうございます。早いもので今年には社会福祉法人愛星福祉会設立20周年に当たります。法人設立当初の償還金は昨年10月に滞りなく完済いたしました。日頃より多大な協力援助を受けていることも含めて、財団法人星総合病院に対し改めて感謝の意を表する次第です。

昨年は、コンプライアンスの不徹底による各業界での偽装問題や政官界の醜聞等々、毎日の如く謝罪の場面が映し出されるニュースが多かった年だったように思います。「上司殺すに刃物は要らぬ、悪い報告せねばいい。」という、この種の問題を揶揄する川柳があります。

活発な意見交換、「ほう（報告）れん（連絡）そう（相談）」の徹底により情報の共有化が図られ継続されるのであれば、組織企業（病院・施設・事業所等）の商品（医療サービス・介護・福祉サービス）の安全性は向上し、利用者やその家族、及び地域との信頼関係も益々良好なものになるはず。20周年の節目の年、福祉の原点に立ち返り、自省しながら研鑽に励む一年にしたいと思えます。どうぞ、本年もよろしくお願いたします。

第72回集談会

平成19年11月1日 郡山ビューホテルアネックス

集談会は、当法人の臨床的なデータや日頃の研究を、地域の医療機関の先生方と共に検討し、医療活動に役立てることを目的に、年2回開催されています。日頃当法人との連携にご協力いただいている地域の先生方や調剤薬局などの関係者、および当法人職員約360名が参加し、一般演題12題と特別講演を聴講しました。会場では、発表内容についての質疑応答が活発になされるなど、大変有意義な会となりました。

総司会 内科 三田 正行

◆座長 看護部 佐久間恵子

1. 看護師のうつ状態と情緒的サポートの関係
星総合病院 第二混合病棟 佐藤 美重
2. 手術後患者における鎮静系アロマテラピーを用いたリラクゼーション効果
星総合病院 外科病棟 嶋原 利香
3. 骨シンチの検査開始時間短縮の検討
星総合病院 放射線科 木村 聡
4. 脳神経病棟における作業療法士の役割
星総合病院 リハビリテーション科 藤本 聡
5. 星総合病院心臓リハビリテーションの現状と課題
星総合病院 リハビリテーション科 幕田 光佑
◆座長 耳鼻咽喉科 鈴木 茂憲
6. 発達障害児へのCSST (Child Social Skills Training) の取り組み
星ヶ丘病院 心理室 酒井 良子
7. 星総合病院における輸液ポンプの流量誤差の検討
星総合病院 臨床工学科 奈須 利政
8. 百日咳が疑われた重症肺炎の乳児例
星総合病院 研修医 菅野 修人

9. 接種後8ヶ月で発症したBCG部位の皮膚結核の乳児例
福島県立医科大学附属病院 研修医 二階堂暁子

◆座長 循環器内科 氏家 勇一

10. Stevens-Johnson症候群(皮膚粘膜眼症候群)の3例
星総合病院 皮膚科 古川 裕利
11. 家族性大腸腺腫症の遺伝子診断
星総合病院 外科 門馬 智之
12. 星総合病院に入院された心筋梗塞患者の肥満度について
星総合病院 循環器内科 木島 幹博

特別講演 座長 小児科 佐久間 弘子

「小児の中樞神経系感染症」

福島県立医科大学 医学部 小児科学講座 教授 細矢 光亮 先生

「エンテロウイルス性髄膜炎」、「インフルエンザ脳症」、「亜急性硬化性全脳炎(SSPE)」について、症例を提示していただき、診断基準・病態の解明・最新の治療方法などについてご講演いただきました。



院内学会開催

平成19年11月1日 郡山ビューホテルアネックス

集談会と同日、同会場において、「第1回 院内学会」を開催しました。これまで、法人全体の研究発表の場として、年2回の集談会のほか、年1回の業務改善報告会を開催していますが、さらにより多くの職員が情報を共有する場として、また、プレゼンテーションスキルの練習をする場の提供を目的として、参加対象者を法人職員に限定した院内学会を開催するに至りました。第1回目となる今回は計8題の発表が行われ、参加者は真剣に耳を傾けていました。



	司会・座長	学術委員会委員長	木島 幹博
1. 糖尿病性神経障害に対するバブ浴の効果	星総合病院 第一混合病棟	増戸 志乃	
2. 看護実践における安全対策の現状	星総合病院 CCU	小山 陽子	
3. 介護老人保健施設オリオンでの安全対策への取り組み —事故報告書Ⅱ報の分析—	オリオン安全推進委員会	谷 佐和子	
4. 転倒・転落と薬剤の関連 —看護師アンケート調査分析の結果から—	星ヶ丘病院 転倒防止部会	瀬上 憲	
5. 心筋血流SPECTを用いてのTID値の検討	星総合病院 放射線科	続橋 順市	
6. 看護学生の発言・意見交換を活性化するために用いたルール効果の検討 —ルールがある場合とない場合を質問紙調査で比較して—	ポラリス保健看護学院	渡辺美保子	
7. 緩和ケアチーム編成に関する一考察 —勉強会アンケート結果より—	星総合病院健診部 (臨床心理士)	菅野 亜紀	
8. ポート留置後の敗血症の一例	星総合病院 研修医	小山田 紘	

ミミッコクラブについて

星総合病院 言語聴覚科部長 鶴岡 美果

難聴児は数が少ないため、難聴児本人や親御さん・ご家族にとって情報が少なく、さらには同じ経験を持つ者同士の仲間作りが難しいという問題があります。そこで、仲間作りやネットワーク作りの機会を提供し、難聴児のより良い療養環境を整えることを目的として、平成17年に「ミミッコクラブ」を設立、星ヶ丘病院を会場に年3回活動を行っています。

■ミミッコクラブ活動の3つの柱

ミミッコクラブでは、「ワークショップ」、「講演会」、「託児」という3つの柱を軸とした活動を行っています。難聴児や難聴の大人をミミッコクラブ員とし、それを取り巻く家族、医療関係者、聾学校の先生、手話通訳者、要約筆記者、その他いろいろな人々をサポートと考えます。このクラブ員とサポーターの絆が深まり広がることで、いろいろな活動の可能性が出てきています。

【ワークショップ】

小学校高学年以上、中学生、そして大学生や社会人となった耳の聴こえにくいミミッコクラブ員たちが参加します。「聴こえにくい人」と「聴こえない人」が出会うので、手話通訳と要約筆記の方々のサポートが重要になります。企画は、難聴の年長者であるミミッコクラブ員が行っており、毎回最後に親御さんたちの前で発表します。このワークショップでは、仲間作りの場になることはもちろんですが、同時に、耳が聴こえなくても立派に活躍している「将来のモデル」に出会えることも重要です。



【講演会】

親御さんやご家族、その他サポーターを対象として行われます。これまでの講演では、福島県立聾学校教諭の長谷川俊夫先生と八木澤雅彦先生による、「難聴である自身の経験を踏まえた子供の教育方法」についてのお話や、小学5年生から進行性の難聴で当科に通院して現在厚生労働事務官として活躍する中村彰宏さんによる、「障がい者が仕事に就き続けて行くには何が大切か、何を大切に育てれば良いか」などについて、お話をいただきました。



【託児】

難聴児が少ないということは、同時に難聴児を同胞に持つ子供も少ないということです。0歳からの難聴児とその兄弟姉妹と一緒に過ごす託児の場は、難聴児同士の出会いの場となるのはもちろん、難聴児を同胞に持つ子供の出会いの場でもあります。毎回、保育士や保健師が楽しい企画を準備し、学生ボランティアの協力にも支えられながら、楽しい時間を過ごしていただいております。



平成19年度 ミミッコクラブ開催

平成19年11月24日に開催したミミッコクラブでは、東京の大塚聾学校講師の南村洋子先生をお招きし、「聴こえない・聴こえにくい子どもとの関係」と題してご講演いただきました。ご自身も耳の聴こえない娘さんを育てられた経験を踏まえながら、難聴児の親としてどのような考えを持ち、子どもとどう向き合っていけばよいかなどについて分かりやすくお話していただきました。次回、平成20年3月22日開催のミミッコクラブ講演会にも今回に引き続きご講演いただく予定となっております。

また今回のワークショップでは、「ミミッコクラブのシンボルマークを作ろう」というテーマのもと、参加者は活発に意見を交わしました。なお、今回の開催の様子はテレビ局の取材を受け、後日テレビ放送されました。

次回ミミッコクラブ開催予定について

次回開催予定：平成20年3月22日(土) 午前10時～午後3時 ※昼食は持参してください

上記の内容の他、「土曜学校親の会」との連携や年長クラブ員一人ひとりの活躍の様子、聾学校をはじめとした養護学校関係の先生や職員の方々の活動の様子など、今回書ききれないことがたくさんあります。皆さんもクラブ員として、サポーターとして、是非参加してみてください。クラブ員とサポーターの輪が広がり、密になっていくことが、ネットワーク作りそのものなのです。

ミミッコクラブに関する問合せ先

星ヶ丘病院 言語聴覚科
吉田・橋本・森
024-952-6411(代)

【病院バスのご利用について】

郡山駅から星ヶ丘病院まで、病院バスを運行しています。聾学校の中高生や、車のない方などなたでもご利用いただけます。当日の病院バス運行時間については以下のとおりです。
駅前発：午前9時 星ヶ丘病院着：午前9時30分

『再就職をめざす看護職の再チャレンジ支援プログラム』研修を実施

ポラリス保健看護学院では、諸事情により一旦医療の現場を離れ、再び職場復帰を目指す看護職を対象に、必要な知識・技術を習得するための育成講座を11月17日から12月15日までの4週間に渡って開催しました。これは文部科学省の委託事業として実施されました。

現在の医療現場は日進・月歩の勢いで変化していることから、看護職が一度現場を離れると再就職には知識・技術に不安があることが考えられます。そのため、この講習会では、ポラリス保健看護学院と財団法人星総合病院関連施設との協力体制により、現在の医療・看護の動向やリスクマネジメント、看護技術演習（静脈注射、採血など）、病院見学研修など現場復帰に必要な知識・技術を提供しました。

開講式 (11月17日)

8名の参加者は自己紹介しながら、これから始まる研修に向けての意気込みなどについて述べていただきました。

各研修の様子



輸液ポンプ・シリンジポンプの操作方法について学びました。



乳がん看護認定看護師より、「乳がん患者の看護」について講義を受けました。



「ストレス対処」について、ストレッチングの実技を行い、運動によるストレス低減効果などについて学びました。

閉講式 (12月15日)



受講者に、星北斗学院長より修了証書が手渡されました。皆、4週間に渡る研修をやり遂げたという達成感と満足感に溢れた表情をしていたのが印象的でした。



受講生8名はこの4週間における研修を通して看護知識・技術を習得するとともに、看護専門職としての役割を再確認し、再度看護師として活躍するために新しい一歩を踏み出すことができました。

受講者の感想

- 皮膚・排泄ケア認定看護師が最新の専門知識をもとに患者さんに必要なケアを提供している様子には感銘を受け、看護専門職の役割を理解することができた。
- 「交流会」では、実際に現場復帰をしているお2人よりお話を伺い、生き生きと活躍している様子が励みになった。
- 研修会を通して不安に感じていたことが少しずつ自信につながった。
- 患者さんの言葉に励まされたり、回復していく過程を目の当たりにできる看護の仕事に改めてやりがいを感じ、現場で働きたいという気持ちが強くなった。
- 患者さんからの一言や笑顔で満足感と充実感を感じ、看護の楽しさを思い出すことができた。

法人看護部では、看護職の資格をお持ちで、現場復帰を考えているという方のために「潜在看護職就労支援講習会」(3日間)を開催しております。ご希望の方は下記までご連絡ください。

問い合わせ：法人看護部

024-923-3711 (内線364・365) 吉田・大内まで

乳がん看護認定看護師誕生～東北で初の認定～



星総合病院 外科病棟 藤田 由紀 看護師

日本看護協会が認定する「認定看護師(乳がん看護)」に星総合病院外科病棟の藤田由紀看護師が東北地方では初めて認定を受けました。認定看護師とは、「特定の看護領域において、熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護実践ができ、看護現場における看護ケアの広がりや質の向上をはかる」ことを目的に、全部で17の分野があります。

平成19年12月10日現在、全国では3,383名の認定看護師が活躍しており、その中で乳がん看護領域の認定看護師は全国で51名、東北では初の認定となります。認定を受けた藤田看護師に伺いました。

乳がん看護認定看護師とはどのような役割を担っているのですか

患者さんと家族への治療に伴う身体的・心理的・社会的サポート、治療選択のサポート、ボディイメージの変容に関わるケア、術後のリンパ浮腫の予防のための患者教育を行います。また、乳がん患者への看護に携わる看護師への指導・相談により、実践的、直接的なケアの向上と乳がん看護の普及のためのチーム医療の中核となる役割があります。

研修の内容について教えてください

6ヶ月の研修で、乳がんの診断・治療の専門的な知識や、リンパ浮腫のケア、ボディイメージ変容への援助技術、乳がん患者の意思決定を支える看護技術、乳がん患者を支えるチームアプローチなど講義・演習で深め、5週間の実習では、病棟や外来での系統的な看護を行いました。また一週間の英国研修では日本と英国での医療形態の違いについて学びました。

今後の抱負を一言お願いします

乳がんの患者さんや家族が少しでも不安なく、治療が受けられるようにサポートしていきたいと思っています。

心臓リハビリテーション指導士誕生

日本心臓リハビリテーション学会が認定する「心臓リハビリテーション指導士」に、星総合病院リハビリテーション科の長尾光祥理学療法士および看護部の富塚玲子看護師が認定されました。

リハビリテーション指導士とは?

心臓リハビリテーションに携わる医師、看護師、理学療法士等のうち、心臓リハビリテーション実施に必要な一定以上の専門的知識と技術を有するものを、日本心臓リハビリテーション学会が認定し、普遍的な包括的心臓リハビリテーションの定着を期待するものです。これは、更に心臓病にならないよう一次予防を目的とした運動療法を積極的に進めることや、心疾患治療に新しい治療概念を提供することを通し、以て国民の健康・福祉に貢献することを目指しています。

今後の抱負を一言



星総合病院心臓病センターは常に先進的な医療技術を導入し国内トップクラスのレベルを誇ります。これは、循環器内科・心臓血管外科医師、看護師、臨床工学技士、放射線技師のレベルがトップであることに他なりません。この中でご指導いただきながら精進し、地域社会の健康・福祉に貢献できる一般病院での心臓リハビリテーションの姿を模索し作り上げていきたいと考えています。

星総合病院 リハビリテーション科 長尾 光 祥



今後この資格を活かして、患者さんに自分の持っている情報を提供し、自信をもって社会復帰できるように協力していきたいです。

星総合病院 看護部 富塚 玲子

財団法人星総合病院医学研究奨励規程の制定について

当法人における医学研究について研究費用を助成し、医学・医療の充実および進展に資することを目的として「財団法人星総合病院医学研究奨励規定」が新設されました。

平成19年度助成対象が決定

この新しい制度を利用した研究が当年度は2例行われています。研究概要等につきましては以下のとおりです。

研究課題	大動脈瘤に対するステントグラフトによる治療
部 署	星総合病院 心臓血管外科
予 算 額	95万円
研究概要	近年、大動脈瘤に対する治療において、人工血管付ステントを挿入することで、手術の負担軽減が図られ、患者の早期離床が可能であると報告されている。本法の手術手技は健康保健適用となっている。一方、ステントについては現時点で健康保健適用ではない。ハイリスク患者に対する治療のひとつとして、ステントグラフト挿入術を行うことは、手術侵襲の軽減及び先端医療の実施につながる。

研究課題	前立腺肥大症に対するTURis(生理食塩水下における経尿道的切除術)の応用
部 署	星総合病院 泌尿器科
予 算 額	95万円
研究概要	TURis(生理食塩水下における経尿道的切除術)は、本来膀胱腫瘍に対するTURとして開発された手術である。閉鎖神経ブロックが不要で、細かい切除が可能利点がある。最近前立腺腫瘍に対する応用が試みられており、生理食塩水を用いるため低ナトリウム血症の発症が少なく、肥大腺核出術を安全に行えるため、根治性が高く、入院期間短縮にもつながるなど患者メリットが大きい。

家族参加型のマタニティクラス 「お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん大歓迎です！」

星総合病院では、「子どもを迎える環境をみんなで作る」ことを中心とした内容で運営しています。

お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん…みんな集まれ

子どもを迎える環境は家族の協力なしではできないことから、マタニティクラスは家族参加を促しています。現在、夫婦同伴のスタイルは決して珍しくなく、全体の7割を占めています。マタニティクラスの中でも人形を使った「赤ちゃんの沐浴」は人気があります。ときには実母・義母の方が子育て大ベテランの立場から、「自分も母乳保育で育てました。母乳はいいですね。」といった共感の声をいただくこともあります。また参加者の中には、上のお子さんを連れていらっしゃる方もあり、その様子を見ることで、妊娠生活や育児がイメージ化されることもあります。

それぞれが「共感」「安心感」を感じる場として

「親になる」過程での戸惑いや不安は誰にでもあります。女性としての体の自然な力を理解し、産む女性としての心身の力を高めるため、そして生まれてくる子どもに対してやさしい関わりとは何か、を考える機会を提供するため「マタニティクラス」はあります。

第1課の「お産クラス」は「陣痛とは何か」「お産の時はどうすればいいの」といった不安を解消してくれるでしょう。自分の中でお産のイメージトレーニングをすることで、安心して分娩に臨めます。

第2課の「母乳育児クラス」は子育ての楽しさ、母乳管理の大切さ、妊娠中の乳房のお手入れ、沐浴、赤ちゃんの抱き方・寝かせ方・授乳の仕方などを行ないます。



赤ちゃんを抱っこして
「わあ、かわいい！」

「赤ちゃん抱っこ体験」は感動的！

産後のお母さんの了承が得られれば「新生児の抱っこ」させて頂くことができます。

「赤ちゃん抱っこ」は赤ちゃんの重さ、ぬくもり、温かさを感じることができ「親になる」という意識を高めてくれます。感動が大きく「印象に残った」という感想が多く聞かれます。

★マタニティクラスの紹介★

日時 毎月第1・3土曜日
13:30～15:30

場所 星総合病院 4階 講義室

第1課 お産クラス (毎月第1土曜日)
分娩の経過、お産になるまでの過ごし方、病棟案内、分娩リハーサル

第2課 母乳育児クラス (毎月第3土曜日)
おっぱいのお手入れ、お産後のおっぱいの変化、授乳の仕方、赤ちゃんの抱き方、赤ちゃんのお風呂の入れ方

【参加した実母・義母からの感想】

- 昔は『抱きぐせがつくから寝かせておきなさい』といわれたけれど、今は『できるだけ抱っこしましょう』と勧めていることを知りました。
- 授乳の時の抱き方はいろいろあることを知りました。私の時はいつも同じ抱き方で母乳をあげていたように思います。
- 沐浴は耳を押さえると思っていたけど、色々な方法があることを初めて知りました。

施設ニュース

星総合病院

第9回 解剖医霊祭開催 12月6日

郡山斎場において、第9回解剖医霊祭が開催され、ご遺族、ご来賓の方々、当法人職員など130名が参加しました。平成18年10月から平成19年9月までに、医学・医療の向上のためにと病理解剖に身を捧げられた9柱の御霊を追悼し、そのご冥福を祈りました。ご芳名の奉読後、理事長による医霊のことは、ご来賓および星総合病院外科病棟田村元子看護師長による追悼のことは続き、参列者一人ひとりが献花を行いました。



小児病棟クリスマス会 12月22日

小児病棟において毎年恒例のクリスマス会が行われました。今年は、ポラリス保健看護学院の学生ボランティアによるハンドベルの演奏や紙芝居、病棟スタッフによる「おしりかじり虫」の曲に合わせたダンスの披露など内容盛りだくさんで行われ、楽しいひとときとなりました。また、サンタクロースとトナカイから子ども達一人ひとりにプレゼントが贈られました。



介護老人保健施設オリオン

クリスマス 12月25日

クリスマスの昼食時、食堂やデイケアに職員が扮したサンタクロースが現れ、利用者の方々全員にプレゼントが配られました。突然の来訪に驚きながらも、利用者は大変嬉しそうな笑顔を浮かべ、サンタクロースと一緒に楽しいクリスマスのひとときを過ごしました。



ポラリス保健看護学院

「北極祭」 11月1日・2日

2日間に渡って北極祭が開催されました。初日は、秋晴れの空の下、ウォークラリーが行われました。各グループごと1枚の地図と最初の目的地を示す写真をもとに、チェックポイントである市内の公園5ヶ所をめぐる、秋の郡山散策を楽しみました。また、2日目は、卒業生による講演会が行われました。



三春町立三春病院

新病院建設進捗状況～建物内部見学開催～ 12月7日・10日

新しい病院の建設が進む中、5月の移転に向けて進捗状況の確認と今後の予定について職員全体への説明会が行われました。現在は、南棟・東棟の2階部分と中央棟1階部分がほぼ完成し、内部の工事が行われています。

説明会では、職員が実際に建設中の病院内を見学し、間取りや各部屋の広さなどを実感しました。

今後は機器や備品等移設のための委員会を立ち上げ、安全でスムーズな引越しに向けての準備を開始します。

